

令和8年度 南 公民館 秋の主催講座

南山手の文学館



昭和100年の記念式典があったのはこの春。「降る雪や明治は遠くなり
にけり」(中村草田男)のように昭和も遠くなったという以上に、AIをはじめとす
る技術革新によって多岐にわたり隔世の感を抱くことが多くなりました。
このような今、読み返したい日本文学の4作品を取り上げ、読み深めます。

時間	13:30~15:30
会場	南公民館
講師	上出 恵子 先生
定員	40名
受講料	無料

日程

回	期 日	学 習 内 容	備 考
1	9月15日 (火)	◎開講式・オリエンテーション ○有吉佐和子『青い壺』(昭和52年) 有吉佐和子の半世紀前の作品が「2025年上半期ベストセラー文庫1位」と なっており話題の『青い壺』を取り上げます。半世紀の時を越えて、本作の何が 今、私たちを惹きつけるのか、ご一緒に考えてまいりましょう。	持ってくるもの ・筆記用具
2	10月20日 (火)	○山本周五郎『ちゃん』(昭和33年) 時代小説に、英雄や豪傑ではない名もなき人々、いわゆる庶民を描いた市井 ものといわれる作品群を確立した山本周五郎。その中でも名作とされる『ちゃ ん』を取り上げ、名作と言われるその理由を深掘りします。	
3	11月17日 (火)	○林芙美子『放浪記』(昭和24年) 長崎にもゆかりのある作家・林芙美子の出世作かつ代表作の『放浪記』です が、成立事情もあわせて、複雑な要素をはらむ作品です。林芙美子という作 家を作り上げたと言っても過言ではない本作の魅力に迫ります。	
4	12月15日 (火)	○夏目漱石『こころ』(大正3年) 『こころ』は近代日本文学を代表する作品の一つです。その広告文に「自己 の心を捕へんと欲する人々に、人間の心を捕へ得たる此作物を奨む」とあるよ うに、本作は〈人間の心(こころ)〉を剔出した漱石の自信作とも言い得ます。 大きな時代の転換期にあつて「人間とは何か」を改めて考えるよすがにしたい と考えています。 ◎閉講式	

●申込期間 令和8年8月1日(土)~令和8年8月31日(月) 必着

●申込方法

① 電子申請システムによる申し込み

右下の2次元コードを読み取るか、長崎市電子申請サービスを検索し「令和8年度秋の公民館講座
【長崎市南公民館】」から申し込む。

② 往復はがき(170円)による申し込み

往信用はがきの裏に講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、
返信用はがきにはあて名をお書きください。

③ 来館による申し込み

返信用はがきをご持参ください。

※ 応募者多数の場合は、抽選を行い結果をお知らせいたします。



●申込み・問合せ先

長崎市南公民館 〒850-0936長崎市浪の平町7番19号
TEL095-825-0295 FAX095-825-0294
Email com_minami@city.nagasaki.lg.jp

※南公民館のその他の情報は

長崎市南公民館

検索